

報道関係 各位

広島経済大学  
入試広報センター

“インドネシア共和国総領事館 × インドネシア国際貢献プロジェクト”  
インドネシア文化交流 伝統竹製楽器アングルン講座 開催のお知らせ

広島経済大学（学長 小谷 幸生）では、インドネシア共和国総領事をお招きし、インドネシアについての理解と交流を深める目的で、インドネシア伝統竹製楽器アングルンの体験講座を開催します。

本講座は本学学生を対象に開催され、当日は本学興動館プロジェクト（注1）のひとつであるインドネシア国際貢献プロジェクトの学生を中心に、約 30 名の学生が参加予定。インドネシアについての紹介やバリ舞踊の鑑賞などの後、実際にアングルンを使って音を奏でる講座を受け、理解と交流を深めます。また、インドネシアのコーヒーを楽しみながらのインドネシア共和国総領事との座談会も予定しています。

本学では、インドネシアに 2 つの姉妹校を持ち、学部生、大学院生、研究員の相互派遣を続けています。昨年度には、広島経済大学同窓会インドネシア支部も発足しました。また、インドネシア国際貢献プロジェクトの活動においても、年に 2 回の渡航が恒例となっており、伝統を継承しつつ村の生活水準を向上させるフェアトレード活動を通じて、現地の方や姉妹校の学生との交流を深めています。本講座は、こうしたこれまでの関係により実現したものとなります。

つきましては、下記のとおりお知らせいたしますので、ぜひ取材していただきますよう、よろしく願いいたします。

（注1）「国際交流」「社会貢献」「地域活性」「経済活動」などに関わるプロジェクト活動の準備・実行はもちろん、企画、交渉、予算管理、報告・発表などの全般について、学生が主体的に取り組んでいる。多様な人間とともに何かを達成する過程の中で、実社会で必要な人間力を養い、「ゼロから立ち上げる」興動人\*として活躍する人材を育成する。

※「ゼロから立ち上げる」興動人とは…

既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材。

## 記

日 時：令和 2 年 1 月 20 日（月） 17：00～19：00  
場 所：広島経済大学 明德館 7 階 プレゼンテーションコート  
内 容：「インドネシア共和国の紹介」と「伝統竹製楽器アングルン」  
（詳細は 添付資料をご確認ください）

以 上

※お問い合わせ、取材のご用向きは事前に以下までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

（記事の内容について）広島経済大学 興動館（こうどうかん）スタッフ

電話（082）832-5010

（取材の依頼について）入試広報センター 山本・足立・住本・藤永

電話（082）871-1313

(添付資料)

## 広島経済大学におけるインドネシアの文化紹介

日 時：2020年1月20日（月） 17:00～19:00

場 所：広島経済大学 明德館7階 プレゼンテーションコート

紹介内容：「インドネシア共和国の紹介」と「伝統竹製楽器アンクルン」

紹介者：

- 在大阪インドネシア共和国総領事館・社会文化教育部：「南の友、インドネシア」
- 神戸インドネシア友の会（KIS）アンクルングループ：「伝統竹製楽器アンクルン」

プログラム：

- 10分間 ご挨拶（広島経済大学、インドネシア共和国総領事）
- 10分間 インドネシアについての紹介
- 10分間 インドネシアの舞踊鑑賞（予定：バリ舞踊）
- 30分間 インドネシア共和国総領事との質疑応答（座談会）  
（インドネシアのコーヒーと軽食の準備、片付け、アンクルン講座の準備を含む）
- 60分間 アンクルン講座

訪問予定者：

1. 在大阪インドネシア共和国総領事館
  - インドネシア共和国観光省（2～3名）
  - 総領事、Mr. Mirza Nurhidayat（ミルザ・ヌールヒダヤット）
  - 経済担当領事、Mr. Pranowo PRAWIROKUSUMO（プラノウォ・プラミロクスモ）
  - 社会文化教育担当領事、Mrs. Nusiaga PUTRI（ヌシアガ・プトリー）
  - 同担当職員／通訳、Mr. Slamet WINARDI（スラメット・ウィナルディ）
  - 同経済部担当／通訳、Ms. Susana RAHARJO（スサナ・ラハルジョ）
  - 同担当職員／運転手、Mr. Tedyanzah JAYADI（テディアンザー・ジャヤディ）
2. KIS アンクルン講師
  - Mr. Kunioki MORII（森井 国興 氏）

参 考：

### インドネシア国際貢献プロジェクト

～フェアトレード活動を通じてインドネシアの伝統工芸品の継承と生活水準の向上を目指す。～

2010年10月、インドネシア ジャワ島中部にあるムラピ山の噴火によって多くの被害が出ました。そのため、2011年度は周辺地域の復興を目指し「被災者を元気にする」「被災者の生活を安定させる」を目的とした「スポーツ活動」「平和活動」「ビジネス活動」を行ってきました。2012年度からは目的を「ビジネス活動を通じて平和を築く」に変更して活動を行いました。その後、被災地の復興にも目処が立ったため、2013年度からは、目的を「フェアトレードを通じてインドネシアの生活を向上させる」とし、インドネシアの伝統工芸品である「テヌン」という布を用いたオリジナル商品の開発や技術支援を開始しました。また、現地の方々との信頼関係を深めるためのフェスティバル、オリジナル商品を日本とインドネシアで販売するビジネス活動を行っています。2018年度からはフェアトレード活動で得た学びを活かし、2つ目の村の支援を開始しました。